

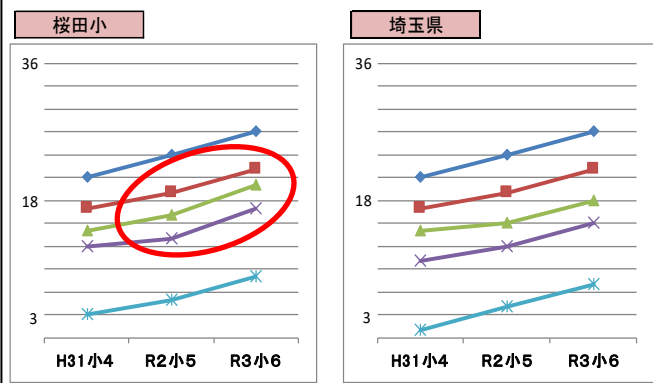
小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
↓	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
低	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

学力の伸びの状況



- 小5から小6にかけて学力のレベルが4上昇し、県平均の伸びを上回っている。
- 中位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 少人数指導

4学級を5グループに分け、少人数指導を行った。そのうち1つのグループは、希望制で単元の内容に苦手意識のある児童を対象とし、学習内容に応じて児童の実態に合う指導をした。単元ごとにレディネステストを行い、児童の実態を把握した上でグループ分けを行った。

イ 算数ドリル、コバトン問題集の活用

児童は計算ドリルに加え、算数ドリルやコバトン問題集に取り組んでいる。その時間で学習した内容の問題に取り組み、児童一人一人が自分で解けるようになるまで指導し、習熟度を高めた。また、月に2回、業前の時間を算数チャレンジタイムとして学校全体で取り組んだ。15分という限られた時間の中で問題を解き、答え合わせや解き直しをしている。



学校全体での取組

ア 特別の教科 道徳と、特別活動を中核に据えた学級経営

校内研修で、道徳と特別活動を中核に据えた人権教育にH29～R元年度の3年間取り組んできた。R2年度以降もコロナ対策をしながら児童同士が互いに認め合う、心豊かな関わり合いができる学級づくりに力を入れ、児童が安心して学び合える場を整えるようにした。

イ 学校で統一された板書の仕方

問題、課題、まとめ、振り返りなど、授業やノートへの書き込みの流れが身に付いており、見通しをもって学習に取り組むことができた。

ウ 漢字・計算オリンピックの実施

毎学期末に、漢字50問、計算20問のテスト（漢字・計算オリンピック）を実施し、全児童が90点以上取れるまで何度でも取り組ませている。90点以上取れた児童に「学びの種子賞」という賞状を渡し、児童の意欲の向上を図っている。

